

4 基本方針ごとの評価

(1) 基本方針 1 生活習慣病の発症予防と重症化予防

【がん】

1 目標項目に関連した施策

- がん講演会、健康教室、健康相談による普及啓発
- 地域団体、医療機関、学校、企業等との連携による健康教室
- がん検診の実施
- がん検診無料クーポン券の送付（一定の年齢の人）
- 様々な媒体等によるがん検診の受診勧奨
- がん検診を受診しやすい環境づくり

2 目標項目ごとの進捗状況

No.	目標項目（指標）	ベースライン値 （策定時）	中間目標値	中間実績値 （直近値）	最終目標値	評価
1	がんによる死亡率の減少 （75歳未満のがんの年齢調整死亡率～10万人当たり～）	75歳未満 78.2 （平成22年）	—	75歳未満 67.9 （平成27年）	75歳未満 69.3 （平成27年）	A
2	がん検診の受診率の向上 （がん検診の受診率）	胃がん 男性 38.2% 女性 28.8% 肺がん 男性 24.1% 女性 22.0% 大腸がん 男性 25.5% 女性 20.8% 子宮頸がん 女性 40.2% 乳がん 女性 35.2% （平成22年）	—	胃がん 男性 48.3% 女性 38.1% 肺がん 男性 48.3% 女性 41.3% 大腸がん 男性 43.6% 女性 37.7% 子宮頸がん 女性 42.2% 乳がん 女性 42.5% （平成28年）	胃がん 肺がん 大腸がん 子宮頸がん 乳がん 50% （平成28年）	B
3	成人の喫煙率の減少 （成人の喫煙率）	16.6% （平成23年度）	13.4% （平成29年度）	16.6% （平成29年度）	10.8% （平成34年度）	C
4	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少 （1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者の割合） ※純アルコール量20gとは、日本酒に換算して1合である。	男性 13.9% 女性 8.5% （平成22年度）	男性 12.9% 女性 7.8% （平成28年度）	男性 13.9% 女性 5.4% （平成28年度）	男性 11.8% 女性 7.2% （平成34年度）	男性 C 女性 A

3 目標達成状況

区 分	項目数
A 目標値に達した	1
B 目標値に達していないが改善傾向にある	1
C 変わらない	2
D 悪化している	
E 評価困難	
合 計	4

4 評価

- がんの年齢調整死亡率（75 歳未満）は目標値に達している。
- 全てのがん検診受診率は男女ともに改善しているが、目標値には達していない。
男女ともに受診率が最も低いのは、大腸がん検診である。
- 成人の喫煙率は変化なく、横ばいである。
性・年齢階級別にみると、30 歳代男性の喫煙率が最も高い。
- 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は、男性は変化なく横ばいである。女性は減少し目標値に達している。
性・年齢階級別にみると、男女とも、40 歳代～60 歳代がその割合が高い傾向にある。

<参考>

平成 29 年度市民健康づくり生活習慣調査結果では、1 日 3 合を超えて飲酒している人の割合は、男性の 30 歳代～50 歳代に多い。

5 今後の課題

- がんは一次予防が最も重要であることから、がんの発症を予防するため、引き続きがんやがん予防に関する知識の普及啓発を図る。
- がんの早期発見・早期治療のため、がん検診の重要性の周知を図るとともに、受診しやすい環境整備等の受診率向上に向けた取組を推進していく必要がある。
- 喫煙は様々ながんの発症に影響を及ぼし、禁煙することにより肺がんなどのリスクが禁煙後の年数とともに確実に低下するため、保健医療関係団体・機関、企業等と連携し、COPDを含め喫煙が健康に及ぼす影響について普及啓発を図るとともに、喫煙率の減少に向け、禁煙支援の取組をより一層推進していく必要がある。
- 働く世代に対して、多量飲酒等アルコール関連問題についての正しい知識及び適正飲酒について、保健医療関係団体・機関、企業等と連携し、普及啓発を図る必要がある。

※「がんによる死亡率の減少」、「がん検診の受診率の向上」については、国の「がん対策推進基本計画」及び広島県健康づくり計画「健康ひろしま 21(第 2 次)」を踏まえ、今後の目標を再設定する必要がある。